

幼稚園教育課程の実践的研究

— 幼児の成長体系を求めて ② —

大津市立長等幼稚園

幼児の成長を追って

— 成長の体系がみられた事例と「幼児の見方・感じ方・

考え方」 —

〔五月下旬～六月上旬〕 幼児のすがた(つつき)

〔事例三〇〕 ままごと(仲間に入れたくない)。

いつもといっしょにあそんでいる女兒(七〇)、(七四)、(七五)の三人が、ままごとをしている。そこへ(二五)と(六〇)が「ませて。」と言ってやって来る。(七〇)「お皿やらたらへんのや。」(七四)「コップもたらへんし……。」(二五)「取って来たら、ませてくれるか。」(六〇)「そ

こに二つあるやんか。」(六七)「そやけど、椅子がたらへんし、あかんなあ。」(六〇)「先生、ませてくれはらへんわ。あの人ら……。」T「どうして、ませてもらえないのやろうね。」(二五)「椅子やらたらへんのやてー。」T「椅子やったら、お部屋のを取って来てもよいよ。でもおかたづけの時に、もとの場所へもどしてね。」(六〇)取ってくるし、ませてや。」(六〇)と(二五)は、椅子を取りに走る。

○見方・感じ方・考え方

- (1) よく知らない友だちは、あそびの中へ入れたくない。
- (2) いじわるする友だちや、自分勝手なことばかりする友だちは、仲間に入れたくない。
- (3) いつもいっしょにあそんでいる友だちだけで、あそびたい。
- (4) 仲間に入れたくないが、仲良くあそばなければならないことを知

っているのでことわりがはっきりいえない。

○まとめ

あそぶ場所の広さや、遊具の数などを理由にして、仲間に入れようとしなないことがある。

〔事例三二〕水道の水なぶり

水道のところで男女三人が水あそびしている。石けんをたくさんつけ泡だらけになった手で話し合っている。(一)「水を手にかけてみい。泡が流れていくわ。」(二)「ハンカチもきたないし洗おうか。」(三)「私、お家でも洗濯してるのえ。」石けんであそんでいる。側で(四)が水道のじゃ口を押えて水をとばした。(三)「ワァーッ、(五)ちゃん、つめたいなあ。」とうとう(二)にかかったらしい。T「お友だちにかからないように、気をつけましょうね。」と注意する。

○見方・感じ方・考え方

- (1)手を洗いたい。(2)気もちがよい。
- (3)お母さんのしていることがやってみたい。(4)洗濯がしたい。
- (5)指の間からおちるのでおもしろい。
- (6)汚れたから洗いたい。(7)蛇口を押えてみよう。
- (8)水のとび方が違うので、おもしろいからやってみよう。

○まとめ

水をなぶる。

〔事例三三〕色水あそび

水道の前に女兒五人並んで、しきりに水をなぶっている。もらったえのぐ五色を、いろいろまぜ合せて、色水を作り、それを小ささまぎまのびんに入れては並べている。(一)「こんなきれいなジュースができたえ。」(二)「これは、ミルクコーヒーや。」T「きれいなジュースがたくさんできたね。」(三)が、びんを持ってみんなの後に立っている。T「みんな、(四)ちゃんも入れたげて。」(五)「(六)ちゃん、ここへおいで。」(三)もみんなにまじって色水を作る。横では、(四)と(五)がサイダーびんの中に入れてたジュースを、形の違うびんに入れ替えてあそんでいる。

○見方・感じ方・考え方

- (1)水をいろいろなものに入れたい。
- (2)びんに入れることがおもしろい。
- (3)びんを並べてみたい。
- (4)いろいろなびんに入れ替えてみたい。
- (5)色合わせをするのがおもしろい。
- (6)色のついている水を残しておきたい。

○まとめ

水を容器に入れたり、色水を作ったりしてあそぶ。

〔六月中・下旬〕

○幼児のすがた

〔事例三三〕雨上りの水たまり

雨上りの閑庭にできた水たまりで、泥水あそびが始まった。(六)「川つころうか。」(八)「向うの水たまりとつなごう。」(六)(八)二人は泥土を掘っていく。(六)「こっちもふこうせんと水が流れへんやけ。」(七)(七)(四)「まぜてくれ。」(二)「まぜたるし、こっち掘ってくれよ。」(七)「よし。」みんなどろんこになって掘る。(四)「ヤーお風呂みたいや。入ってみよう。」(七)「どろどろの土や、壁作ってはるみたいや。」(四)(七)二人は、どろどろの土の中へ入ってキャッキャッキャはしゃいでいる。みんなの長靴は泥だらけになった。

○見方・感じ方・考え方

- (1)水がなぶりたい。(2)家だとめられていることがしたい。
- (3)泥水をなぶったり、はねかえらせたりしたい。
- (4)泥水を掘りたい。(5)たまっている水を流してみたい。
- (6)きたないけれどやってみたい。(7)流れていくのがおもしろい。
- (8)流れる道を作ってみたい。
- (9)自分の思うように、川の流れや道のできるのがおもしろい。
- (10)水たまりの中へ入りたい。

○まとめ

泥土を掘ったり、泥水を流したりして川や道などを作つてあそぶ。水たまりに入つてあそぶ。

〔事例三四〕相撲ごっこ

相撲ごっこは、すもうあそびをしていふ。そこへ(五)「ま

ぜくれ。」とやってきた。(七)「先生この人かなんわ。」I「なんで。」(七)「負けるし。」I「負けるとかなんの？」と皆に聞く。(七)(七)「ふんかなん。」と声を揃えて言う。(五)「(八)くんは、むちゃくちゃしゃはるしかなんわ。」(五)「(八)ちゃんは、やんちゃしゃはるしかなんのや。」I「(八)ちゃんも、さしてほしいのやし、いっしょにさしてあげて頂戴。」(七)「僕やめるわ。」(五)「僕も。」(七)「(七)ちゃん、(五)ちゃん、こっちへこい。ここでしょう。」と場所をちょっと移動して、もとのメンバーであそびを続けた。(八)は、つまらなそうに外へあそびに出た。

○見方・感じ方・考え方

- (1)勝つてばかりいる強い友だちと、あそびたくない。
- (2)負けてばかりいるのはおもしろくない。(3)よし勝つてやろう。
- (4)○○さんと、あそびたい。(5)誰とあそぼうかな。
- (6)よく知っている友達の中から、力の合った友達を探そう。

○まとめ

気心や能力の合った友達とあそぶ。

〔事例三五〕積木あそび

積木あそびは、口々に言いながらする) 会集室で男児五人が、積木あそびをしている。それだけが、思い思いに積み上げていくうちに舟らしいものができた。(七)が梯子を持つてきて、「こへかけるぞー。」とひとり言。(四)は紙筒(直径六厘位、長さ八〇厘位)を二本持つてきて、大砲らしいものを取付

ける。(四)「戦艦やぞ。これふたつ大砲や。僕一番隊長やぞ。(五)「僕は二番隊長や。」(六)「僕は三番隊長やぞ。」他のものはまだ一生懸命積木を並べている。(三)「ダイナマイトを取ってきてくれ。」(七)「よし。かけて行く。(四)「一秒二秒三秒ドーン。一発打ったぞ。」誰に言うともなく、それぞれ自分の言いたいことを言いながらあそんでいる。

○見方・感じ方・考え方

- (1)自分の思うようにしたい。
- (2)自分の思うようにしてほしい。
- (3)自分の感じたこと、思ったことを言いたい。

○まとめ

自分のしたいことを、一方的に言いながらあそぶ。

〔事例三六〕リズムあそび

ステレオを持ち出し、皆のよく知っている曲をかける。「歌の絵本体操」友達と顔を見合せていたが、一枚の途中から(三七)(三五)の二人が、おどり出した。二回目をくり返すと二人のところへ(三二)(三七)(三三)(三六)(三四)(三三)(一)達も、にこにこ顔で共におどり出した。ステレオの横には四、五人が集っている。(七)「これどうして聞えるのや。」(二五)「どうして廻るのやろな。」二回三回とくりかえしならしている間に、おどっている仲間が二十人位にふえた。(三七)「先生こんど、タヤケならして。」タヤケの曲がなり出す横にあった楽器を持ってカチカチたたき出す。五、六人が鈴やハンドカスタを持

ち、リズムに合わせてならず。(二六)(三〇)のいる仲間の方からは、歌声が聞えてきた。何もせず友達をやっているのを見ている子どももいる。

○見方・感じ方・考え方

- (1)音の出るものがおもしろい。
 - (2)うまくできなかつたら困る。
 - (3)いろいろな楽器がならしてみたい。
 - (4)どんな音がするだろう。
 - (5)レコードの音が、どこから出るだろう。
 - (6)レコードの廻っているのを見よう。
 - (7)リズムに合わせてならしたい。
 - (8)好きなように、たたけるからおもしろい。
 - (9)なんとなく、うたったりおどったりしたい。
 - (10)知っている歌を聞いたり、うたったりしたい。
- ⑪まねしてみたい。

○まとめ

音楽に合わせて、うたったり、おどったりする。

〔事例三七〕絵本よみ

保育室で本よみをしている。一人で読んでいる子どもや二、三人がいっしょに見ている子どももいる。ある一グループをのぞいてみると、(二七)が読み役、他の男児三名は、そばで読んでもらいたがら、話し合っている。(二七)「やまからきた、やる。」とひろいよみ

をすると(六〇)「ウワーぎょうさん(たくさん)のさるやねえ。」(六一)
「ちびぎる、かわいいね。」(六二)「ボスぎるも、いよるぞ。これかもわ
からんなー。」(六三)「次どうかいたある？」(六四)「ほくが、おか
しをもってくると、こぎるも ちょうだい ちょうだいするんだ
よ。」と読むのを、みんな黙って聞いている。(六七)は読んでいく。

〔事例三八〕 図鑑

会集室の一隅で、五、六人の男児が頭をつつこんでかたまっている。
教師の顔を見た(二〇)が「先生こんな虫つかんだ。」T「ほん
と、なんとという虫かな。」(二一)「先生何ちゅう虫 言うて。」T「き
あ、なんとという虫かな。虫の本があるから調べてみようか。」(二三)
「調べよう。先生その本貸して。」教師は子どもに引張られるよう
にして図鑑を取出す。図鑑をもった(二四)は早速ひらいている。(二五)
「これみたいやね。」(二六)「そやけど、これはこんなんやし、ちよっ
と違うみたいやぞ。」次頁をくり、(二七)「あっ、これと違うか。」
(二八)「ほんま、よう似たるわ。」と書いてある名を、とぎれとぎれ
に「いとぎりむし」と読む。虫は横に置いたままでいろいろ書いて
ある虫類を見ながら話し合っている。

○見方・感じ方・考え方

- (1) 他のあそびがしたくないので本を見よう。
- (2) 絵を見るのがおもしろい。
- (3) 絵を見ながら想像したことを話す。
- (4) 字が読めるから読んでみたい。

- (5) 自分の知っていることが話したい。
- (6) 友達がみているから自分も見よう。
- (7) 友達といっしょに、見たり聞いたりしたい。
- (8) とうてきた虫が、図鑑にのっているか知りたい。またその名前も知りたい。
- (9) 絵本や図鑑を見て解らないことや、珍しいことが知りたい。
- (10) 自分の知っている動物などが、絵本にかかれてあるか、さがしてみたい。

○まとめ

いろいろな絵本が見たい。

〔事例三九〕 大ぜいでタイヤころがし

園庭で大きなタイヤをころがしてあそんでいる。(三七)「もっとこ
っち持たんと、こけるやんけー。」(三九)は、こけそうになりながら
(七三)に言われたようにしようとする。(二二)「すべり台の上まで持
っていこうか。」(二四)(七)共に「うん。」(七)「ほら、またこけるや
んけー。」(二五)「こ持て(三三)くん。」またもう一つのタイヤを
(七七)(七六)(六七)が、さきえもちながら、すべり台の上へ持っていこう
としている。(七七)「おーい、(二四)ちゃんも手伝ってくれ。」(二五)
「うん。」と走って手伝いにいく。すべり台の上で(七七)「ふたつ、
いっしょにすべらそうか。」(二四)「そうしよう。そうしよう。」ふ
たつのグループが話し合いながら、すべり台の上からタイヤを転

がしたり、園庭を転がして歩いたりしている。

〔事例四〇〕自動車洗い

自動車の所で六人の男児があそんでいる。(三三)「ガソリン入れたぞー」(四三)「もつと、いれんとあかんやろ。」(三三)(四三)の二人は、バケツの水を自動車の後部へ流している。(三三)バケツに水を汲んでくる。(三三)「ガソリン買ってきたぞ。」(三三)が(三三)のバケツを、うけとって、水を流しこむ。(七五)「掃除せんと、あかんやんけ。」(三三)「そうや、僕とこのお父さん、いつでも朝拭かはるわ。」(九六)(七五)(三三)は雑布をもってきて、車体を拭く。側でじっと見ていた(七五)が「ませて。」といって仲間に入る。(三三)「パトロールに行くのけ。」(九六)「違うぞ、名神高速道路へ行くのや。」(七五)「ドライブブウェーやね。」(三三)「ドライブブウェーきれいやぞ。」などと話しながら、自動車あそびを続けている。

○見方・感じ方・考え方

- (1) これでいっしょにあそぼう。
- (2) 一人でできないから助けてほしい。
- (3) 一人でできそうもない。(4) 大勢でするとおもしろい。
- (5) ませてもらう。

○まとめ

多くの友だちと一しょにあそぶことを望む。

〔事例四一〕ブランコ乗りの数かぞえ

(一七)(三)(七)の三人が、ブランコに代り合って乗っている。(七)が乗っているのを(三)が数え出した。(三)「一、二、三、四、……。」とても早く数え出した。(七)「おーい、お前の乗る時は、ゆっくり、ゆっくり数えたのに(七)君のを、そんな早う数えたらあかんやんけ。かわいそうやぞ。」(三)は、ニタツと笑って(三)「(七)君 そんならもう一回乗れ。」今度は、ゆっくり数え出した。

〔事例四二〕滑りをする順番

女兒八人が、すべり台に順序よくならんで滑っている。(九)が階段をのぼろうとしたところへ(三)が、どこからか走ってきて(九)を押しつけて、自分がのぼろうとする。その時三番目にならんでいた(四)「(三)ちゃん あんたあかんえ、みんなならんで滑ってるやんかいさ。」(三)「すぐすぐと列の一番うしろへ行きかける。」(三)に続いて横から入ろうとしかけていた(三)も(四)のこぼを聞いてあわてて列のうしろへならびに行った。

○見方・感じ方・考え方

- (1) 早く〇〇を使いたい。(2) 長い間使いたい。
- (3) 友だちと同じように、使った方がよいと思う。
- (4) 順番を守らなければ、ならないと思う。
- (5) まちがっていると思うことを、注意したい。
- (6) あそんでほしいから、がまんしよう。

○まとめ

遊具を早く使いたいが、友だちと同じように使った方がよいと思う。
まちがっていると思うことを、しないよう他人に言う。

〔事例四三〕 摘んではいけない花

(六) 「先生 先生。」と教師のところへ飛ぶようにやってきた。T「どうしたの？」(六)「あのな、あっちのお便所の向うの方にある大きな葉っぱは、とったらあかん葉っぱやなあ。」T「さあ、どれかな。」(六)「先生見に来てみ。」教師を連れて行きながら、(六)「その葉っぱ、取ってあそんではるのえ。」(六)「先生、あれや。」みるとカシナの葉を四人の男女児が取って籠にに入れてあそんでいる。T「そうね。あれは夏にお花が咲くので植えてあるのやし、取ったらかわいそうやね。」(六)「わたし、教えて来てあげるわ。」四人のところへ走って行った。

○見方・感じ方・考え方

- (1)これは、いけないことだと思うけども、先生に尋ねてみよう。
- (2)自分の思っていることが、先生と同じだった。
- (3)先生と同じ考えであったことを、友だちにつたえる。
- (4)まちがっていると思うことを、注意する。

(道徳的な価値判断が他人と違うことを発見する)

○まとめ

まちがっていると思うことを、しないよう他人に言う。

〔事例四四〕 ボーリングあそび

男児四人が、ボーリングを会集室へ持ち出す。はじめは個々が玉を投げていたが、積み上げた積木のすき間を見て、(四七)「あの穴へ投げようか。」と(六三)に言う。(二二)(三七)(五五)もまじり、みんな穴をめがけて、ボール転がしをする。側で見ていた(三三)「ボールを出す役したるわ。」といって、積み上げられた積木のかこいの中に入り転げてきたボールをかこいの外へ転がし返す。(二二)「穴へ入ったら、一点入るのにしようか。」(三七)(六三)「うん、そうしよう。」(五)「うん。」傍にいた(三七)「穴へ入ったら、点を言うたるわ。」といって、穴の入口に立って球をみつめている。T「点数をかくのだったら、黒板とチョークはここにありますがよ。」と渡してやる。(二二)が、一字一字声を出しながら曲つたような字で名前を書く。すると(二七)が、審判をして点数が入ることに記入して行った。

○見方・感じ方・考え方

- (1)私もしてみたい。(2)友だちといっしょにやってみよう。
- (3)自分たちで遊び方をきめてあそぼう。
- (4)こんなあそび方ができる。(5)競走がしたい。
- (6)こうしたらどうなるだろうか。
- (7)自分のやりたいと思うことを言う。
- (8)自分の知っていることを言いたい。
- (9)友だちにあそび方を教えてあげよう。

○まとめ

自分たちであそび方をきめる。

〔事例四五〕ままごと(リーダー的な子どもによる役付け)

保育室の片すみに広げられたごごの前で五、六人の女児がならんでいゝる。その前に一人の女児(六〇)が立ってみんなに何か話している。(六〇)「わたしがおかあさんやで。」(六一)「あんた背が高いしお姉さんになりや。」(六二)「あんたはその次のお姉さん」(六三)、(六四)には、「あんたらは子どもやで。」一番背の低い(六五)には「あんたは一ばん小さい赤ちゃん。」(六六)は自分のすきな役を選び、他の友達には自分の思うように役付けをした。(六七)はつまらなそうな顔をしている。

○見方・感じ方・考え方

- (1)自分のしたい役がしたい。
- (2)自分の思うように友だちの役づけがしたい。
- (3)友だちといっしょにあそびたい。
- (4)仕方がないから、リーダーに言われた通りにしよう。
- (5)自分の好きな役ができるように先生に告げる。

○まとめ

リーダーの役づけにしたがって、ごっこあそびをする。

〔7月〕

○幼児のすがた

〔事例四六〕つみ草

園庭の片すみで(七六)(七八)女児二人がぶらぶら歩いている。(八四)「これきれいなあ。」(七六)「この花とろうか。」(八四)「ふん。」二人は話し合いながら草や草花をつみ教師のところへ来る。(八四)「先生こんなのつんで来た。」T「きれいなね。たくさんつんで来たね。」(七六)「先生に一つ上げるわ。」教師のスモックのボタンの穴に一本さしてくれた。T「ありがとう。」(八四)「これお部屋にかざってもいいか。」T「いいよ。」(八四)「お花入れるのに、びんか何かちょうだい。」T「何か探して上げようね。」教師にもらったびんに草花をさし、それを自分の部屋へ飾りに行った。

○見方・感じ方・考え方

- (1)これ、きれいなあ。
- (2)きれいだからつもう。
- (3)草花をたくさんつみたい。
- (4)これと同じのを、さがそう。
- (5)つんだ草花を、みてほしい。
- (6)部屋や、からだを飾りたい。
- (7)先生にあげたい。

○まとめ

草花をつんで来てかざる。

〔事例四七〕色あそび

(四八)がえのぐで絵を描いている時、画紙にえのぐが、二、三てき落ちた。(四八)「ワァーこんなになった。」ひとり言を言う。それをそばでじっとみていた(四九)は、自分でわざと落してみる。(五〇)「き

れいになるわ。もっとしてみよう。」色を変えて落す。(一六〇)「ぼくもしよう。」(一六〇)はえのぐ筆を振り出した。T「お友だちにかからないように気をつけようね。」(一六〇)に言う。(一六〇)は、数滴たらしただけをかたむけて流している。(一六〇)「先生、ほれ、こんなになつたわ。」T「きれいになったね。」(一六〇)は、えのぐをたらした画紙を半分に分けたり、四半分に分けたりいろいろの折り方で色あそび(デカルコマニーなど)をしてあそんでいる。

○見方・感じ方・考え方

- (1)筆をふってみよう。(2)きれいになった。
- (3)もう一度やってみよう。(4)違う色でもやってみよう。
- (5)おもしろいなあ、美しいなあ。
- (6)わたしにも、できるだろうか。(7)汚れるといやだなあ。

○まとめ

いろいろな、かきかたを工夫して絵をかく。

〔事例四八〕積木の舟

男児五、六人が、会集室の大積木で、船を作っている。(一五七)「これは、鯨をとりに行くふねやし、大きいのやで。」(一五七)「そやね。もっと大きいしよう。ここへ上るのはしごがいるわ。」並べた積木には、はしごが二本もかけられ、船の上には机と腰掛による食堂ができる。(一五七)「ここ、食堂やでー、だれかごちそう作ってくる。」側で見ていた女兒、(一五七)「うちませで、ごちそうつくるわ。」(一五七)

「オッケイ。」船の端には、まだ幾つも積木を並べその上に板をのせる。T「そこ、何ができるの。」(一六二)「先生、ここさんばしや。ここから魚つたり、とび込んだりしはるのやで。」T「そう、おもしろそうやね。」男児六人「ませでー。」(一六二)「みんなまじれ」船の上では、ただ一人の女兒(一六二)が忙しそうに花のごちそうを作っている。

○見方・感じ方・考え方

- (1)つんだり、ならべたりして、あそびたい。
- (2)遊具や材料をとってこよう。
- (3)他人の持っている遊具が、使いたい。
- (4)大きなものをつくりたい。(5)いろいろな材料を独占したい。
- (6)できたものの上にあがったり、とんだり、くぐったりしたい。
- (7)仲間とあそびたい。(8)仲間と同じようにしよう。

○まとめ

いろいろな遊具や材料で、工夫して大きなものをつくり、それを使ってこつこあそびをする。

〔事例四九〕水あそび場

赤組と黄組の男児、交代でプールの水あそび。黄組男児(一六三)「赤組早う上れよ。先生ばくら早う入らしてー。」T「もう少し、待ってたげてね。」プールの中では、赤組男児、キヤッキヤッ、はしゃいでいる。(一六三)はとび込みばかり。(一六三)は、一人前に泳いでいるかのようなすまし顔で、一、二度、パチャパチャしては、両手で、

ブルブルと顔をふく。交代の時間がきた。T「さあ、黄組と代りましよう。」赤組男児「なあんやー。」残念そうにシャワーの方へ行く。黄組男児、(九六)は、少し元気がない。T「(九七)ちゃんどうしたの。」(九八)「顔へ水かけはるし、かなんのだ。」T「じゃ、(九九)ちゃん、こっちの方であそびましょ。」(一〇〇)を角の方へ連れてやる。水しぶぎと共に元気な水あそびがまたはじまった。

○見方・感じ方・考え方

- (1)水あそび場へ早くはいりたい。
- (2)水につかってあそびたい。
- (3)こわいけれどはいってみたい。
- (4)気持がよい。
- (5)こわいから、はいりたくない。
- (6)泳ぎたい。
- (7)水の中にとびこみたい。
- (8)水をかけたい。
- (9)水が顔にかかったらいやだ。

○まとめ

水の中へ、はいってあそぶ。

【事例五〇】ロボットづくり

空箱や紙、その他いろいろな素材のあるこの部屋では、構成あそびがはじまっている。(七七)帽子の空箱をかぶって、室内を歩きまわっている。(七八)、(七九)を見ると自分も帽子の空箱をとり上げ、その場に坐り込んで何か作り出した。はさみで、眼や口らしい穴をあけると、素材のある場所へ行く。色針金をみつけたり、十本余りを箱の上部にさした。側で見ていた(八〇)が、糸のこまや、写真の芯や

アイスクリームの空箱などを持って行く。(一一〇)「(一一一)ちゃん、これそこへつけたら、耳になるんやんけ。」(一一二)「うん、そやね。(一一三)ちゃんもしてや。」(一一四)「これ、すぐとれるしセロテープとってきたるわ。」頭の後に四角の穴をあけて、手の入るようにする。(一一五)「もし、ロボットのきかいが、いたんだら、ここから手を入れてなおさはるのにしようね。」(一一六)「そうしよう。」頭の中には、曲った針金がつまっている。(一一七)「先生、できた。二人でしたんや、かぎってや。」得意そうにもって来た。

○見方・感じ方・考え方

- (1)何かつくりたい。
- (2)これでつくろう。
- (3)材料がほしい。
- (4)もうするところないかなあ。
- (5)ここどうしたらいいだろう。
- (6)ちょっと手伝ってほしいなあ。
- (7)これからどうしてよいかわからないから、もうやめよう。
- (8)私もつくってみたいけれど、できなかつたら困るからみてみよう。

○まとめ

- (9)ちがった材料を使ってしてみよう。
- (10)つくったものをみてほしい。
- (11)かぎってほしい。

種々な材料を工夫しながらなにか作ろうとする。

【事例五一】ボール投げ

会集室で、男児七、八人がボールあそびをしている。ゴムマリを高い壁に当てようと一生懸命である。かべまでとどかなかつたボールは、通り抜けて保育室のガラス戸に当る。教師は、衝立に大きな色分けのまどをかき、まど当てをはじめ。 (二三)「先生、ませて。」 (九五)「ぼくも、さしてや。」いつのまにか、大勢集つて来た。子どもたちは、チョークで線を数本引き、どこからまどに当てられるか競争をはじめ。

○見方・感じ方・考え方

- (1)とばしたい。 (2)なげたり、うけたりしたい。
- (3)どうしたら、よくうてるだろう。 (4)競争がしたい。
- (5)きつく投げないでほしい。

○まとめ

ボールをなげたり、とばしたりする。

〔事例五二〕紙ひこうき

置いてあるいろいろの素材の中から、少し厚みのある紙を取り出すと、 (二七)「先生、この紙も使っていいか。」T「ええ、いいのよ。」 (二三)は、早速紙ひこうきを折る。 (二三)「できた。できた。」 (二七)「ぼくも、作ろうと。」 (二七)は、ひとり何かつぶやきながら折り上げると、とばしに行くが、余りとはばない。 (二七)「あかんわ、もう一回しよう。」別の紙で、今度は折り方を考えながら、少し変えて折ろうとするが、思うようにならない。 (二七)「おい、 (二三)君これで作って

くれよ。」 (二三)「よし、作ったるわ。」三、五人と飛行機を折る子どもがふえて行く。「とんだぞ。」「とばへんやんけ。」自分で、そつととばして見たり、きつくとばしてみたり、また友だちに教えてもらったりにして、それぞれにとばし方を工夫している。

○見方・感じ方・考え方

- (1)紙ひこうきをつくってとばしたい。 (2)競争がしたい。
- (3)同じものを作ってほしい。 (4)どう折ったらよくとぶだろう。
- (5)どう投げたらよくとぶだろう。

○まとめ

紙ひこうきなどが、どうしたらよくとぶかためしてみる。

